

入院時の待ち時間短縮に についての取り組み

所管・所属：洛和会音羽記念病院 TQM委員会
発表者：小嶋 彩葉

背景・目的

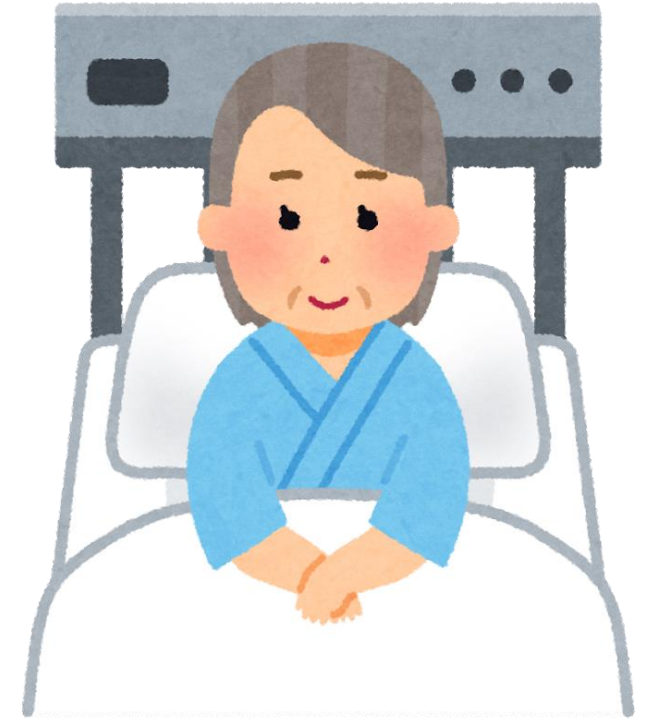
- ・ 予定入院だけでなく臨時入院を受け入れることが多い。
- ・ ベッドが満床でありこともあり臨時入院患者は透析後、退院予定患者が退院してからベッドに案内

↓

部屋に案内するまでの時間を要している。

↓

入院待ち時間を短縮する



原因分析

入院までの時間を集計（来院～部屋にご案内）

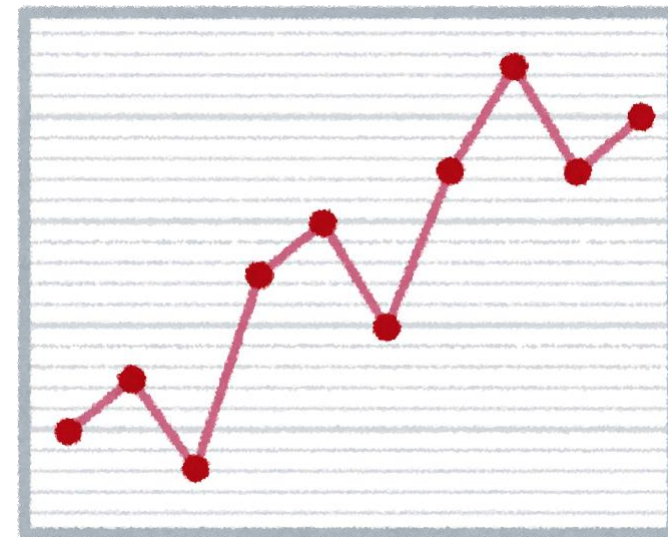
→最長で1時間35分、平均37分

待ち時間が長い原因は？

→予定入院と臨時入院がある

予定入院はあらかじめベッド準備ができている

臨時入院は退院予定患者が透析後に退院してから入院になる

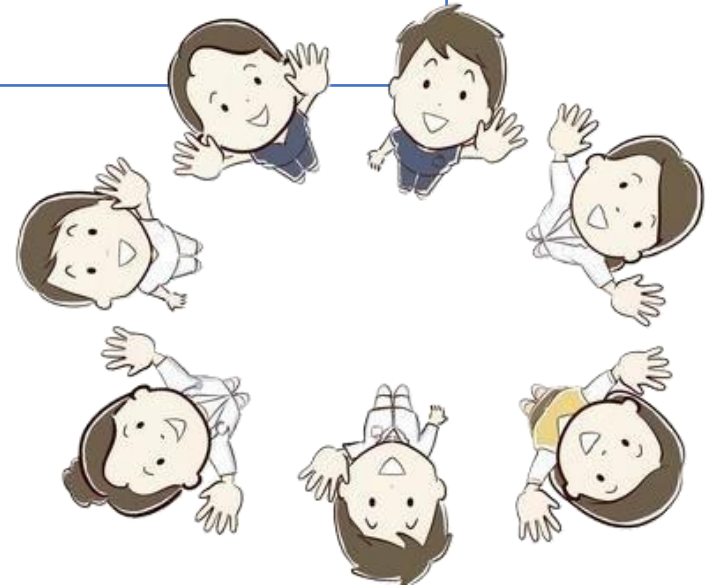
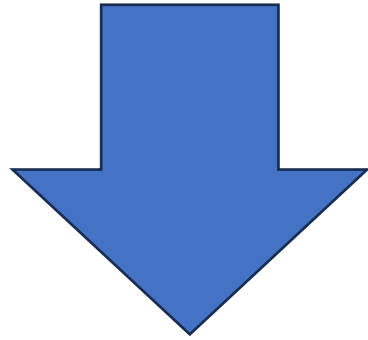


改善策

- ①入院時対応についてマニュアル化
- ②入院対応をスタッフ1名に対して入院患者1名で入院対応を行う
- ③昼食を食べない患者に
透析後に病室に戻らない退院の仕組みを作成

透析室から退院の方法

- ①透析センターからの退院の患者説明、同意を得る。
- ②退院予定の透析患者に昼食を食べるか確認し、
食べない場合は透析後の退院の準備を行う。
- ③退院延期となった場合の居室を確保する。



MSW・病棟・透析センター・管理課が協働して実行

結果

2025年7月～9月まで実施

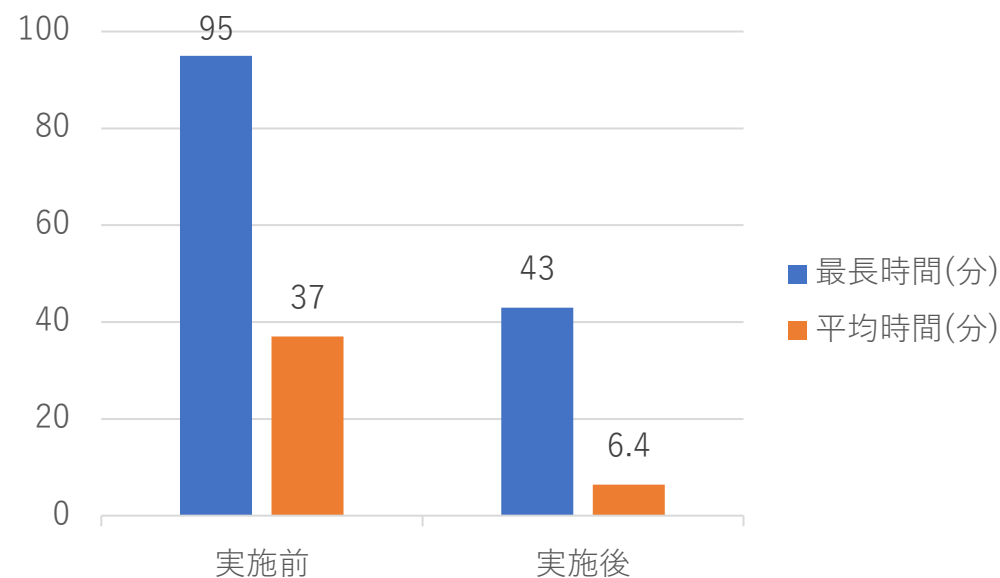
→1ヶ月で2、3人の患者が昼食なしで透析室から退院することができた。

入院時間は最長43分、平均6.4分となり当初の最長1時間35分より52分短縮できた。

※入院稼働率は4月・・・92.40%

5月・・・88.40%

8月・・・89.10%



考察

- ・各部署が協働し多くの視点から知恵を出し合い、検討する
→透析室から直接退院できるように協力し合えたことが入院待ち時間短縮の達成に繋がった。
- ・フローを可視化、標準化、実行することで待ち時間の短縮に繋がった。
- ・今後継続していく中で入院受け入れ環境全般の改善に繋がりが顧客満足度の向上にも繋がると考えられる。



結語

1つの問題に対して、1つの部署だけで改善策を考えていくのではなく、関連する部署が問題に対して考える。

= 協働して取り組むことで問題解決に繋げることができた。

今後も病院全体で顧客満足度向上できるように取り組みたい。



ご静聴ありがとうございました